県立高校再編整備計画（平成２４年度～平成２６年度計画（案））に対するパブリック・コメントの概要

１　パブリック・コメントの実施状況

（１）募集期間

平成２３年１２月２７日（火）から平成２４年１月２６日（木）まで

（２）公表方法等

県のホームページに掲載するとともに、県庁情報公開コーナー、各地方県民相談室及び山口県税事務所防府分室、各県立高等学校で自由に閲覧できるようにしました。

（３）意見提出方法等

郵送、ファクシミリ、電子メールにより意見を募集しました。

２　意見の件数

２４人　７１件

３　提出された意見及びこれに対する考え方

※表中に（２件）とあるのは、同様の意見が２件あったことを表す。

（１）県立高校再編整備計画（平成２４年度～平成２６年度計画(案)）に係る意見（６１件）

意見の内容	意見に対する県の考え方
１　再編整備 （１）全日制課程 ア　再編統合（１５件）	
【下関中央工業高校と下関工業高校の再編統合に係る意見】	
再編統合に賛成である。１年でも早く実現してほしい。	再編整備にあたっては、生徒に質の高い教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。 両校を再編統合することにより、工業科の教育機能を一層充実させ、専門性を高めるとともに、選択幅の広い教育の展開を図るなど、より質の高い特色ある学校づくりを推進します。
専門性を活かし、他県に負けない日本一の工業高校にしてほしい。（２件）	
将来の生徒と山口県の工業教育のために、最良の統合であってほしい。（２件）	
子どもの数が少ないので、仕方がなく賛成である。２つの高校でコストがかかるのであれば、１つの方がよいのではないか。	
山口県の将来を考えるのであれば、工業高校を充実させ、クラス数を多くすべきであり、下関工業高校と下関中央工業高校の統合には反対である。	
どのような高校をつくるのか、ビジョンがはっきりしていない。	具体的な学校づくり等については、小・中・高等学校の保護者など、関係者の意見も聴きながら、検討を進めます。
設置場所は下関中央工業高校の位置が、利便性が高く、最適と思う。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
統合はやむをえないと思うが、市内の地域バランスを考慮し、現在の下関工業高校の場所を活用し、安岡地区に高校を残してほしい。	
下関工業高校の場所に設置されると、旧市内の保護者や生徒の負担は大きくなるのではないか。	
せっかく造るのであれば、新しい土地で建設してはどうか。設置場所は、新下関地区がよいのではないか。	
校名は下関工業高校の方がわかりやすい。	
工業科の活性化のためには１学年８クラスは必要である。	
福岡、長崎の高校と造船科共有はどうか。	
１　再編整備 （１）全日制課程 イ　分校化（２１件）	
【奈古高校の分校化に係る意見】	
分校化は、適正な規模への統廃合を進めるという考え方に矛盾している。通学困難になる生徒には各学区に学生会館等を設置し、遠方からの生徒を入寮させてはどうか。	特色ある学校づくりを推進し、活力ある教育活動の展開など、高校教育の質をより高めていくためには、望ましい学校規模の確保をめざし、再編整備を進めていくことが重要です。 １学年２学級の学校については、生徒の通学の実態等から望ましい学校規模の確保をめざした再編統合が困難で、最小学校規模の確保が見込まれない場合には分校化に取り組むこととしています。 具体的な学校づくり等については、小・中・高等学校の保護者など、関係者の意見も聴きながら検討を進めます。
県の予算削減等のため、さらには生徒の入学定員数減のために、再編し、分校化することが適切であるか疑問である。（２件）	
少子化をもとに数字合わせで合理化に結びつけ、分校化するのでなく、環境・風土を活かす充実した教育によって存続のための方策を考えるべきである。そのためには、管内の他の高校の定員を削減し、調整してもよいと思う。	
今回の再編整備の進め方は、全体計画では理解しているが、最終の実行計画に入った段階では、余りにも緊急的、唐突的である。もっと相互理解の場をはかってほしい。	
卒業生として寂しい思いと現状を受けざるをえないのか、と複雑な心境である。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
分校化するのではなく、農業の専門性を深めるカリキュラムを組んだり、他校にない部活動に取り組んだりなどして、子どもたちにとって魅力ある学校づくりに取り組み、県教委、学校、保護者、地元住民が、それぞれの立場で、奈古高校存続という同じ目標に向かって努力を続けることが大切である。	今後とも、生徒にとって魅力ある学校づくりを進めるとともに、入学状況などを見ながら、最小学校規模（１学年２学級）の確保が見込まれない場合には、分校化に取り組みます。 また、その際、具体的な学校づくり等については、小・中・高等学校の保護者など、関係者の意見も聴きながら検討を進めます。
分校化は仕方のない流れであろうが、安易に休校・廃校にしないように、分校の魅力や特色の出せる「地域の」学校づくりができるよう教員配置、予算措置をしてほしい。	
少人数でも郷土の将来のために骨太で力強い生き方を実践する人材育成が最も重要視されると思う。	
普通高校の分校ではなく、職業高校の分校にしてほしい。	
将来的に分校化する場合、本校は、農業教育の観点から、山口農業高校が相応しいと思う。	
農業高校の果たす役割は極めて大きく、山口県の農業教育は如何にあるべきかという観点から大局的に熟慮し、生徒のニーズに対応する特色ある学校に再編整備をしてほしい。	県立高校は地域との様々なかかわりをもっていますので、その状況等も踏まえながら再編整備を検討していきますが、再編整備にあたっては、生徒のニーズを踏まえた教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。 また、農林業を取り巻く社会の変化や生徒のニーズの多様化などを踏まえながら、教育内容等の検討を進めます。
地域の活性化のためにも、奈古高校の農業の専門校としての継続を望む。（２件）	
阿武・萩地区に農業専門の学校を置き、県の力でこの地区の専門高校に生徒を送り込んでほしい。	
定員割れがネックだと思うが、阿武・萩は県内でも有数の農業地帯であり、教育内容等を充実させ、担い手を育成する高校の存続をめざしてほしい。（３件）	

意見の内容	意見に対する県の考え方
奈古高校を存続してほしい。仮に分校化しても、農業関連教育は残し、農業後継者の育成をしてほしい。	
萩市、阿武郡には、兼業農家が相当あり、そのような家庭の子どもたちが地域の後継者、農業の担い手として、農業の基礎を学ぶ学校が近くに是非必要である。（２件）	
１　再編整備 （２）定時制課程（１３件）	
昼・夜間部だけでなく午前部も設置すると、多様な生徒の要望に応える体制が整う面もあるが、校舎を使う時間が長くなるため、全日制から独立して設置する必要がある。	「山口県高等学校定時制・通信制教育検討委員会」から提言された「学習時間に関するニーズや多様な学習動機をもつ生徒への対応の必要性」などの基本的な考え方も踏まえ、県教委では、昼間部と夜間部を併せもつ多部制の定時制課程を置く高校の設置など、定時制教育の一層の充実に向けた検討を進めます。
「生徒の多様な学習ニーズ」とあるが、どこでその「ニーズ」を把握して多部制が必要であるという計画になったのか。定時制課程に来ている生徒の現状把握をしっかりした上で議論・検討してほしい。	
生徒の学習保障を考えるのであれば、昼間部の定時制を設置するのではなく、都市部に柔軟な教育課程と学習環境をもつ全日制の設置や、いわゆるフリースクールの支援を考えた方がよいのではないか。	
多部制の設置は課題解決の一つの方法であるが、それは再編統合するための方便であって、定時制課程の生徒の学びを保障するためのものでないように思える。	
多部制、単位制の導入は、定時制の生徒にこそ必要な、集団での活動が妨げられ、生徒がバラバラになってしまうので、現在の制度を堅持すべきである。	
多部制を設置した場合、教職員の交代制勤務や、午前、昼間、夜間各部専用の教室が必要である。これらの課題も考慮して、予算や教職員の人数、人材確保等を含め、慎重に進めてほしい。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
学校規模を小さくして、よりきめ細かい指導ができる体制を充実させるべきである。（２件）	生徒の実状を踏まえ、より柔軟な教育システムの構築を図るなど、定時制教育の一層の充実に向けた検討を進めます。
統合によって、家庭や職場から遠くなると通えなくなる生徒も多くなると思うので、学級規模や学校の設置位置等は熟慮が必要である。	生徒の入学状況や交通の利便性等を勘案しながら、多部制の定時制課程を置く高校の設置とあわせて、現在ある定時制課程の統合を図るなど､適切な配置の検討を進め、より充実した教育活動の展開を図ります。
定時制、通信制への進学割合は横ばいないし増加傾向にある中で、適切な配置を理由に統合すべきではない。	
統廃合で生徒の行くところが減ると、遠いところに通学しなくてはなくなることもあるので反対である。	
定時制課程の統合が、地域によって必要なところもあるが、「より充実した教育活動の展開」を図るなら、北浦地域などへの新たな設置も検討する必要があるのではないか。	
交通の利便性を考えるならば柳井地区、萩地区に新たな定時制を設ける必要がある。進学できない生徒や通学困難な生徒を生み出さない配慮こそ教育行政として行うべきである。	
１　再編整備 （３）通信制課程（４件）	
通信制を多部制の定時制高校に併設するのは、定通併修に都合がよいと思う。	生徒の実状を踏まえ、より柔軟な教育システムの構築を図るなど、通信制教育の一層の充実に向けた検討を進めます。
多部制定時制高校が複数できるのであれば､そのすべてに通信制を併設してほしい。交通事情等を考慮すると、３～４校必要ではないか。ただし、北部には定時制高校がないため、協力校の確保が必要である。	
全通併修については、不登校生徒を卒業へと導く可能性を秘めた制度だと思う。全日制から独立することで、より利用しやすくなると期待している。	
通信教育を充実し、スクーリングはセミナーパーク等で実施し、宿泊も便宜を図るなどしてはどうか。	

意見の内容	意見に対する県の考え方
２　通学区域（８件）	
通学区域が県下全域になることはとても良いことと思う。	生徒の多様な進路希望や能力・適性等に対応し、一人ひとりの個性を伸長させるため、すべての高校において、特色ある学校づくりを進めています。 こうした中、生徒が学校をより主体的に選択できるよう、全日制普通科の通学区域を県下全域とする方向で検討します。
通学区域の境界付近の地域ではどちらでも選べるしくみは必要だが、ネームバリューのある高校に全県から志望が集中し、その学校のある地域の中学生の選択幅をかえって奪うので、やめた方がよい。	
地元の高校に通えず、高い交通費を負担して遠くの高校に通わなくてはならなくなる高校生が増えるので、退学や不登校を増やすリスクになるとともに、下宿をする高校生も増え、生活管理等に不安が生じることとなる。	
全県一区は、高校間に大きな格差が生まれるので反対である。	
極めて少数の生徒が特定の高校を選択できるようになるだけであり、多くの生徒は選択幅は広がらず、序列化された高校へ進学することとなり、個性伸長につながらない。	
生徒の多様な進学希望や適性等に対応するためには学区を小さくし、学級規模を小さくし、教員を多く配置することが必要である。	
他の都道府県における問題点を把握し、山口県のよさを堅持、発展させることこそ教育行政の使命である。	
将来的に学区を廃止するのはナンセンスな発想である。	

（２）その他の意見（１０件）

これらの他に、次のような御意見もありました。今後の参考にさせていただきます。

再編整備の進め方に係る意見（２件）
再編統合する場合、在校生の卒業を待って、学校を廃止するというのはどうにかならないか。
再編計画については、計画にあげる前の早期に、校名等具体的な再編統合構想を公表して、検討、準備期間をゆっくりもてるようにするのが適切である。
再編整備全般に係る意見（６件）
生徒の能力・適性を開発・伸長する方向で計画を進めてほしい。
普通科のクラスを減らして、工・商業高校のクラス数を増やすなど、次代のニーズに合うような学科編成になるとよいと思う。
高校や生徒にとって質の高い教育活動が展開されるよう十分検討して進めてほしい。
定員割れや生徒数減少の観点よりも、高校の特色・特性や生徒のニーズ及び地域の特性などを十分に考慮して進めていただきたい。
高等学校の再編整備は、将来を見通し、またやるべきことをしっかりやってほしい。
分校化した学校は教員定数が減り、より質の高い高校教育の提供どころか、現状を維持するために教員が大変なエネルギーを使っている。効率だけを優先し、安上がりな教育を追求するのではなく、山口県教育のよさを失わないことを期待する。
その他の意見（２件）
実業高校に関して、定員割れであれば、他県からでも入学させる道があってもよいのではないか。
県外からも生徒を集める、また、県内から生徒を下宿させても通わせたいと思える魅力のある学校のビジョンを作成してほしい。